

林木育種の成果の普及のために 平成25年度林木育種成果発表会、林木育種開発品種説明会を開催

1月28日に、東京都江東区の木材会館において、「新たな森林・林業と林木育種～エリートツリーの開発と普及～」をテーマに、林木育種成果発表会を開催し、都道府県の研究機関など、100名以上の方に参加いただきました。

岐阜大学応用生物科学部の向井譲教授に「育種技術の高度化と基盤整備」の特別講演を、北海道立総合研究機構林業試験場の来田和人研究主幹に、「グイマツ×カラマツ雑種『クリーンラーチ』の開発と普及」の特別報告をしていただき、林木育種センター等から、特定母樹、エリートツリー、遺伝資源の保存、海外協力、機能性樹木について成果発表を行いました。

また、3月11日には、平成25年に改正された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」により、新たに民間事業者に対して特定母樹を育成するための種穂の提供や支援を行うこととなったことを受け、造林に関する方を対象に、木材会館で「林木育種開発品種説明会」を初めて開催したところ、森林組合、種苗協会、林業事業者など100名を超える方々に参加いただきました。

エリートツリー、花粉の少ないスギ・ヒノキ、マツノザイセンチュウ抵抗性マツ、材質の優れた品種等、近年開発された品種を中心に紹介しました。

どちらの会においても、数多くの質問が出され、活発な意見交換がなされました。民間の方からの質問も多く、特定母樹等による原種からの種苗生産への参入意欲の高さや、山をより良くしたいという熱意の強さが感じられました。

林木育種は研究だけでなく、開発された種苗を普及することも重要であり、今後も様々な機会を設け普及に努めていきます。(企画部 育種企画課 沖義裕)



林木育種成果発表会の様子



開発品種説明会で配布したパンフレット

八重山諸島の植物紹介

イリオモテランは日本では石垣島、西表島、魚釣島に分布する樹幹に着生する大型の蘭で、发育の良い個体では草丈は1m近く、花序の長さは30cmほどになります。古くから観賞用に乱獲され、また自然林の伐採やノヤギによる食害などもあって、絶滅の危機に瀕しています。

八重山諸島最大の西表島には、熱帯・亜熱帯樹種の育種技術を開発する拠点としての林木育種センター西表熱帯林育種技術園があります。この西表島では、ごくまれに特徴的なまだら模様の花をびっしりと咲かせたイリオモテランに出会うことができます。

(文責・イラスト：遺伝資源部 保存評価課 大谷雅人)



イリオモテラン

学名: *Trichoglottis luchuensis*

林木育種情報 No.15 平成26年3月27日発行

独立行政法人 森林総合研究所 林木育種センター
〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師 3809-1

TEL : 0294-39-7000(代)

FAX : 0294-39-7306

ホームページ <http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>

※紙へリサイクル可

